

人の氣持が、人知事な

イソツバ物語 活現実にあつては

元がよろうな者がある

さむいとき 身在るかい物かふべい

お夕一じよといふのがあつ

やさしい豆 きのこがどお多くあつて

口がたりもい

身在るくしていふと 木つとして

体も心も身在るくあつ

さむい時 ちかまふのん

ハイ どうぞ と出て来

平手不血 だ してらる ぶあてく する

血 ほんの少し かけ出 てる

石物のスー ーとろが い 見だく 茶碗が

頭をのぞかせてい

スー ーと 半分 ぐえ てる

ふかすの 身が 器に かけが たり の けう

いっ ぶん てる

甲石 血 茶に とろどつ てる とり

あつ てる 茶碗

と存りにある小げうは

あつた物本山になつていゝ

海方とりあさになつた存いと存かひる

めぐすれぬた目と送つていゝ

会事と自分でするのと存のと大変だ

台所と立つて 調流は出来ずい

安井様はつかすつて 移籍するにやだ

年よりの甲での行 ~~進~~ じやいせは

あばらしい ^ニ ステムだ

内容がととのうのは 年月かすて

無理かえしれあひ

介談する人は若い

年よりと存りあひと 年よりのニとほ

わがうあひ

あなをかい物がほしりあんと 少かうあひ

リストと ^し 風で ^し ときあつてり

2022
12/28